



林業福島

No. **631**

題字 公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
会長 齋藤卓夫



ふくしまから
はじめよう。

Future From Fukushima.

3

2017

監 修 ■ 福島県農林水産部
表紙の写真 ■ 雪 解 け の こ ろ



「全国森林環境税」の創設に向けて

福島県町村会会長
新地町長 加藤 憲 郎

皆様方には、日頃より、町村行政の推進にご理解とご協力をいただいておりますことに厚く御礼申し上げます。また、これまで森林の整備、保全等に日夜努力を重ねておられることに対しまして、心から敬意を表するものであります。

さて、我が国の山村は、豊かな自然環境を有し、日本人の心の原点として我が国を支えてきた力の源であり、国土の保全、水源のかん養等の多面的・公益的機能の発揮に重要な役割を担ってきました。

しかしながら、山村を取り巻く環境は、依然として生活環境の整備が低い水準にあるほか、過疎化・少子高齢化の進行、適切な管理が行われていない森林の増加など更に厳しい状況にあります。

このような中で、政府は昨年、新たな木材需要の創出と国産材の安定供給体制の構築を柱とし、林業・木材産業の成長産業化を図ることとする新たな「森林・林業基本計画」を策定しました。

地方創生が喫緊の課題となっている中で、豊富な森林を有する山村地域にあつては、森林資源を最大限に活かした産業の育成により、就業機会を創出し、若者の定住の促進を図ることが重要であり、そのためには、山村地域に人が住み続け、林業生産活動を通じた日常的な森林の整備・管理が一層必要となっております。

これまで町村では、林道の開設、間伐や地元産木材の利用拡大、担い手の育成等に懸命に取り組んできましたが、より一層森林整備に取り組んでいくためには、安定的・恒久的な財源の確保が不可欠であります。

特に全国有数の森林県である本県では、これまで多くの人々が森林とともに暮らし、林業を生業とする生活を営んできたところであり、本県の森林・林業の再生は、本県の復興にとって大変重要なものであります。

昨年末の与党税制改正大綱におきまして、長年、私どもが求めてまいりました森林・林業・山村対策の抜本的強化をはかるための「全国森林環境税（仮称）」について、地方公共団体の意見も踏まえながら具体的な仕組み等について検討し、三〇年度税制改正大綱において結論を得るとされたことは、私ども町村の悲願実現に向けて大きな前進であり、今後、早期の創設に向けて、全国町村会と連携を図りながら強力に活動を展開してまいり所存であります。

福島県町村会といたしましては、今後も関係団体との連携を強化しながら、山村地域の活性化がはかれるよう、全力で取り組んでまいりますので、今後とも一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

《も く じ》

とびら	「緑の募金の実績」……………	6
～「全国森林環境税」の創設に向けて～	南会津町高枕原地区・番屋地区における航空実播工の施工について…	7
福島県町村会会長	普及指導員通信……………	8
新地町長 加藤 憲 郎…………	森連だより……………	9
トピックス	きのこセンターだより……………	10
海岸防災林再生シンポジウムを開催…………	「自然に親しむ」……………	11
平成28年度林業普及指導員全体研修会を開催…	木材市況・ふくしま東西南北……………	12
平成28年度林業研究グループ等活動発表会を開催…	はなしのひろば・お知らせコーナー…………	13
「WOODコレクション2017 モクコレ」に出展…		

海岸防災林再生シンポジウムを開催

公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
緑化推進局

一月三十一日（火）、福島市のアクティブシニアセンター『A・O・Z（アオウゼ）』多目的ホールにおいて、一〇〇名超の参加をいただき海岸防災林再生シンポジウムを開催しました。福島県では、東日本大震災で発生した津波によって流失した海岸防災林（以下、「海岸林」という。）の整備を進めています。成林するまで長い年月を要する海岸林の再生には県民参加による応援が必要であることから、一般県民や市町村、地元企業等の皆様が、海岸林再生の意

義や重要性に対する理解を深め、海岸林を再生する活動に参加していただくきっかけとなるよう開催したものです。

シンポジウムは、基調講演とパネルディスカッションから成り、はじめに、国立研究開発法人森林総合研究所東北支所の主任研究員の萩野裕章博士（農学）に、「海岸林再生生活を地域のシンボルとして継続するために」の演題で基調講演をしていただきました。

萩野先生は、海岸林の防災機能、植栽後の手入れ、福島県内ボランティア団体の特徴と意義、海岸林の利用や楽しみ方等について解説され

ました。

パネルディスカッションでは、国土防災技術株式会社社長の執行役員で緑環境事業部長の田中賢治技術士（森林部門）をコーディネーターとして、本県の国有海岸防災林を管理する関東森林管理局磐城森林管理署署長の小林重善氏、本県の民有林行政を所管する福島県農林水産部森林保全課課長の渡部茂氏、相馬市を中心にボランティア活動を行っている「ふるさと再生、菜の花、黒松植栽プロジェクト」代表の柳沢実氏、山形県酒田市で先進的な海岸林植樹や保育活動を実施している「万里の松原に親しむ会」会長の三沢英一氏の四人にパネリストを、基調講演講師の萩野先生にはアドバイザーを務め

ていただきました。

その中で、官民が一体となって海岸林を適切に保全していくことの重要性などについて熱心に討論がなされ、海岸林は成林するまでに長い年月を要するため、再生活動は植樹後の保育を継続していくことが重要であることなど多様な意見が出されました。

当協会では、今後ますます企業ボランティアなどに加えて地域住民が関わって海岸林を守り育てる保育活動を展開していけるよう支援してまいります。



基調講演に聴き入る参加者



基調講演講師 森林総合研究所東北支所 萩野裕章氏



基調講演に聴き入る参加者



パネルディスカッションに聴き入る参加者
壇上向かって左から右に：萩野裕章アドバイザー、田中賢治コーディネーター、小林重善パネラー、渡部茂パネラー、柳沢実パネラー、三沢英一パネラー

平成二八年度

林業普及指導員全体研修会を開催

福島県林業振興課

平成二八年度林業普及指導員全体研修会を二月一日（水）、県林業研究センター研修本館で開催し、林業普及指導職員をはじめ林業関係者等約八〇名が参加しました。

この研修会は、県内の各普及地区の代表者七名が、日ごろの普及活動の取組についての活動発表を行うものであり、今年は、高等学校と連携した担い手育成の取組、共有林の有効利用や獣害被害対策のための森林



普及活動発表（県南農林事務所 笠原航氏）

整備の取組、林業復興やわらびの再生産を目指した取組、CLTの利用による地域材需要拡大の取組など、日ごろの普及活動成果が報告され、それぞれの発表に対し活発な質疑応答が交わされました。

午後からは、岩手大学農学部准教授、岩手・木質バイオマス研究会会長の伊藤幸男氏より「木質バイオマスエネルギーによる地域活性化の可能性と課題」と題して、二〇年後を



講演する伊藤幸男氏

見通した木質バイオマスエネルギーのあり方や需給予測、導入の成功事例・失敗事例について御講演をいただきました。

その後、県林業振興課飯沼課長より活動発表に対する講評があり、審査の結果、最優秀賞には笠原航さん（県南農林事務所）、優秀賞には五十嵐正徳さん（南会津農林事務所）が選ばれました。最優秀賞の笠原さんは、青森県で開催される平成二九年度林業普及指導職員東北・北海道ブロックシンポジウムに福島県代表として参加される予定です。

各林業普及指導地区からの活動発表課題名は、次のとおりです。



県普及指導職員協議会長より表彰

「県北地方におけるわらび栽培の取組」

（県北農林事務所 阿部由紀子）

「新たな木材利用による地域材需要拡大の取組」

（県中農林事務所 山田 憲司）

「新規就業者の確保にむけた人材育成の取組（高等学校と連携した事例紹介）」

（県南農林事務所 笠原 航）

「獣害被害防止に向けた里山林整備の推進」

（会津農林事務所 平塚 真基）

「共有林（カラマツ林）の有効利用と持続的な森林経営について―人工林から広葉樹林への樹種転換に向けて―」

（南会津農林事務所 五十嵐正徳）

「震災からの林業復興を目指した普及指導活動」

（相双農林事務所富岡林業指導所 長峯 秀和）

「持続可能な森林の整備を目指して」

（いわき農林事務所 豊田 広幸）

平成二八年度 林業研究グループ等活動発表会を開催

福島県林業振興課

平成二八年度林業研究グループ等活動発表会を一月三十一日（火）、県林業研究センター研修本館で開催し、県内各地の林業研究グループをはじめ林業関係者等約八〇名が参加しました。

この発表会では、県内各地の自主的な実践活動を行っているグループの活動内容を各地区の代表が発表することにより、各林業研究グループの活動の展開に資することを目的に毎年開催しており、今回は六団体から、森林環境学習ボランティア活動、地域の子供への体験活動、里山再生をめざした森林整備、森林認証による地域材の利用促進、侵入竹を



活動発表（田人林業研究会）



講演する原薫氏



講演の様子

活用した森林環境学習など、様々な活動について発表がありました。午後には、株式会社柳沢林業代表取締役、ソمامチ代表の原薫氏（長野県松本市在住）より、「山の価値は無限大く楽しい林業を目指して」と題して、林業を志した経緯、林業経営者また女性林業家としての心構えや社員との関わり、そして地域の建築士や設計士、木材製品メーカー等で立ち上げた任意団体ソمامチの活動について御講演をいただきました。

その後、県林業振興課飯沼課長より活動発表に対する講評、審査結果の発表があり、最後に表彰を行いました。

した。
審査結果及び発表課題は、次のとおりです。

区分	地区	グループの名称	発表のテーマ
福島県知事賞	いわき	田人林業研究会	「田人森の会の取り組みについて」
公益社団法人 福島県森林・林業・ 緑化協会会長賞	県南	金沢地域里山づくり実行委員会	「金沢地域里山再生プロジェクト」
福島県林研グループ 連絡協議会長賞	県北	NPO法人福島県もりの案内人の会 県北地区支部	「もりと共生する自然環境づくり」の取り組み」
	県中	NPO法人小野自然倶楽部	「子供と遊ぶ、子供と学ぶ森林環境体験活動」
	会津	西方共有財産管理会	「里山は宝の山～里山林の整備と地域活性化に向けた取り組み～」
	南会津	NPO法人みなみあいづ森林ネットワーク	「南会津の森林認証」

なお、福島県知事賞に選ばれた田人林業研究会は、宮城県で開催される平成二九年度東北・北海道ブロック林業グループ活動発表会に福島県代表として参加される予定です。

福島県林研グループ連絡協議会 第十六回通常総会の開催

同日、福島県林研グループ連絡協議会第十六回通常総会を開催し、平成二九年度事業計画及び収支予算等を協議しました。
特に、平成三〇年春季にいわき市で開催される第四七回全国林業後継者大会については、主催者（県実行委員会の会長団体）としてしっかり取り組んでまいりますので、引き続きご指導、ご支援方よろしくお願いいたします。

【事業計画】

- 1 第四七回全国林業後継者大会の推進
 - 2 第六九回全国植樹祭への参画
 - 3 東北・全国規模で開催される各種研修会等への参加
 - 4 東北・北海道林業グループコンクールには、福島県代表として当協議会の「田人林業研究会」が参加
 - 5 県内で開催される研修会等への参加・支援
 - 6 多様な担い手育成事業の実施
 - 7 第四二回福島県林業祭への参加
- 7 グループ活動等に関する情報の提供
林業新知識、林業福島等の無料配布

【新規加入】

次の団体の加入を承認しました。
南会津町
NPO法人みなみあいづ森林ネットワーク



総会風景

WOODFLEXSHOW2017 モクコレに出展

福島県木材協同組合連合会

東京都は一月十九日、二〇日の両日、東京ドームシティー プリズムホールで日本各地と連携した木材製品展示会「WOODコレクション2017 モクコレ」を開催しました。

同展示会は、大消費地である東京での木材利用の拡大に向けた「ALL JAPAN & TOKYO プロジェクト」の一環で、日本各地と東京都が連携し、地域材を活用した建材や家具、小物などの製品展示を行い、特に木材加工業者等に対して高い技術を駆使した魅力的な木材



福島県内各企業ブース

製品をアピールするイベントとなっています。

昨年二月に開催された第一回は、長野と岐阜、東京の三都県五〇社の出展で来場者数は五〇〇人でしたが、今回は北海道、岩手、秋田、宮城、福島、山梨、千葉、福井、長野、岐阜、静岡、兵庫、和歌山、熊本、大分、東京の十六都道県一三四社の出展で、二日間で約一、三〇〇人の来場者がありました。

県内出展者は、県木連、協和木材(株)、藤寿産業(株)、田村森林組合、江戸川ウッドテック(株)、(株)ダイテックであり、それぞれが展示ブースを受け持つとともに、展示用躯体の作成に当たり、各事業者がスギ柱、集成材梁、WOOD・ALCのカーテンウォール、フローリングなど、得意分野のものを提供しひとつの躯体に仕上げました。さらに、この躯体の中で煎茶アーティストがお茶と県産の茶菓をふるまい、来場者の注目を集めました。

他県の展示で特に目を引いたのは秋田県、静岡県、山梨県の出展です。

秋田県は、製材から構造用集成材、内装壁面材、フローリング、合板のサンプルのほか、CLTや耐火壁、円筒LVLなどの新製品に加えて、曲げわっぱや樺細工といった伝統工芸品なども展示し、「何でも揃う」産地であることをアピールしていました。これに加えて、巨大な垂れ幕やバナー表示で秋田杉をPRしていました。

静岡県は、「森林の都しずおか物語 ショー TOKYO×静岡の木」をテーマに、天竜や大井川、富士、静岡、東部等の地域木材を活用した製品を多数展示。富士山世界遺産センターや草薙総合体育館の模型も並べて、具体的な部材の使われ方を示しました。

山梨県は、県有林として国内最大のFSC森林管理認証を取得していますが、今回の展示では県有林材を使用したFSC認証材製品の小物や木製文具、木製遊具、造作材、床板、紙類を出品しました。



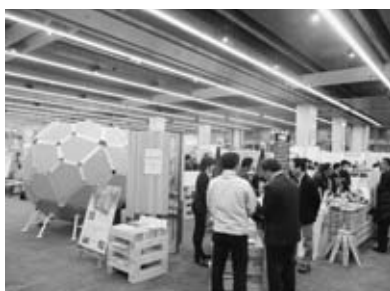
秋田県ブース



県木連ブース



山梨県ブース



静岡県ブース

また、会場内で実施されたセミナーでは、多田千尋日本グッド・トイ委員会理事長・東京おもちゃ美術館館長、小林道和竹中工務店木造・木質建築推進本部長等がそれぞれ講演しました。

東京都は「モクコレ」をオールジャパンのイベントに育てることにしており、来年(平成三〇年)の第三回は江東区の東京ビックサイトに会場を移して拡大開催する予定となっています。

平成29年度の緑の募金目標額 7,000万円

緑の募金のご協力よろしくお願いたします

緑の募金の実績

平成28年度は、下表のように震災後初めて目標額の9割を超える約6,316万円（4月～12月分集計）のご寄附をいただきました。多くの県民の皆さまに厚く御礼申し上げます。

皆さんからご協力いただきました「緑の募金」は、緑の少年団の活動支援や県内の学校、公共施設等に緑化苗木を配布する環境整備、地方植樹祭・育樹祭、第14回うつくしま育樹祭の開催、学校緑化活動への支援などに活用させていただきました。

平成29年度の「緑の募金」春季募金期間は、例年どおり新年度がはじまる4月1日から5月31日までとなっておりますので、皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。



平成29年の緑化運動標語

「未来へと 植えて育てる 緑の輪」

〒960-8043

福島市中町5-18 福島県林業会館内

(公社)福島県森林・林業・緑化協会

(緑化推進局 緑化推進課)

TEL 024-524-1480 FAX 024-521-3246

平成28年度 緑の募金実績 (平成28年4月～12月)

単位：円

市・地方緑化推進委員会	募金目標額	募金実績額	達成率 (%)	募金の種類				
				街頭募金	家庭募金	企業募金	職場募金	学校募金
福島市緑化推進委員会	9,300,000	4,269,397	45.9	152,255	0	1,966,705	773,074	1,377,363
伊達市緑化推進委員会	2,300,000	2,436,598	105.9	29,762	1,853,257	261,384	240,082	52,113
伊達郡緑化推進委員会	1,400,000	1,505,355	107.5	73,493	1,024,100	216,000	162,119	29,643
二本松市緑化推進委員会	2,100,000	1,347,290	64.2	116,012	0	702,362	229,000	299,916
本宮地域緑化推進委員会	1,300,000	1,664,092	128.0	0	994,612	468,820	106,421	94,239
国土緑化郡山市推進委員会	11,100,000	11,400,789	102.7	11,432	7,417,930	1,118,074	802,586	2,050,767
須賀川市緑化推進委員会	2,600,000	1,329,665	51.1	30,638	1,529	651,808	344,891	300,799
国土緑化岩瀬地方推進委員会	600,000	595,089	99.2	110	474,000	3,600	73,001	44,378
田村地方緑化推進委員会	2,600,000	3,364,987	129.4	35,762	2,367,084	372,875	536,688	52,578
国土緑化石川地方推進委員会	1,800,000	1,913,069	106.3	12,005	1,089,861	305,300	213,695	292,208
白河市緑化推進委員会	2,200,000	1,960,216	89.1	3,322	1,133,801	605,177	165,516	52,400
国土緑化西白河地方推進委員会	1,600,000	2,029,499	126.8	21,951	1,365,087	423,697	189,531	29,233
国土緑化東白川地方推進委員会	1,500,000	1,388,986	92.6	56,400	915,200	170,220	213,221	33,945
国土緑化会津若松市推進委員会	4,500,000	5,534,381	123.0	36,252	3,700,250	662,000	700,733	435,146
両沼地方緑化推進委員会	2,000,000	1,907,039	95.4	10,734	1,589,820	115,262	191,223	0
会津耶麻地方緑化推進委員会	1,200,000	1,348,406	112.4	466	1,004,000	88,245	128,393	127,302
喜多方市緑化推進委員会	2,000,000	2,526,431	126.3	47,529	1,586,450	407,365	469,691	15,396
南会津地方緑化推進委員会	1,400,000	1,806,488	129.0	66,204	1,342,100	125,870	230,166	42,148
相馬地方緑化推進委員会	4,400,000	1,560,235	35.5	33,891	1,021,205	0	505,139	0
双葉地方緑化推進委員会	2,600,000	0	0.0	0	0	0	0	0
いわき市緑化推進委員会	11,500,000	12,121,621	105.4	118,039	8,752,316	1,228,993	1,606,873	415,400
小計	70,000,000	62,009,633	88.6	856,257	37,632,602	9,893,757	7,882,043	5,744,974
事務局	-	1,158,139	-	13,310	0	603,313	541,516	0
合計	70,000,000	63,167,772	90.2	869,567	37,632,602	10,497,070	8,423,559	5,744,974

※街頭募金にイベント募金、常設募金等を含む。

南会津町高杖原地区・番屋地区における

航空実播工の施工について

会津森林管理署南会津支署

平成二七年九月に発生した関東・東北豪雨による災害は、会津森林管理署南会津支署が管轄する南会津地域でも道路や河川等の生活基盤、そして国有林にも甚大な被害をもたらしました。今回はその災害復旧にあり施工した航空実播工の事例を紹介いたします。施工箇所は、南会津町(旧館岩村)の高杖原地区、番屋地区にある山腹斜面の崩壊地で、標高一、〇〇〇〜一、三〇〇mの範囲で全九箇所、合計五・五haになります。



ヘリによる運搬



ヘリによる実播



緑化した現地

実施が難しい、という諸条件下で「更なる崩壊を早急に防ぐ」必要があったため、積雪地における施工自体あまり例がありません。今回の場合、施工箇所が散在しその面積も広大ながら、資材運搬路等を敷設することなく省力的かつ短期間で施工が可能という本工法の特長がまさに活かされたケースとなり、実際の工事では対象の崩壊地を五日間で施工することができました。施工に当たっては、やせ地・乾燥地に強い種子を採用し、種子や資材などの散布後の厚さが全体に五〜一〇cm程度になるように散布するスラリー方式を採用しました。施工時期については、種子の成長が春(三〜五月)と秋(九〜十月)にピークを迎えることや、種子流出リスクが高まる梅雨や冬期の凍上、積雪への対策上、生育日数をできるだけ確保するためにも雪解け後速やかな施工が必要であったため、準備作業などを経て五月下旬に施工しました。また、施工技術の向上と今後への参考のため、配合における肥料や水分などの量を変えた

り、種子無しの配合で外部からの種子を待ち受ける試験区を設定し、生長量の比較等を試みました。施工の結果ですが、施工五ヶ月後の平成二八年十月時点で丈は全体的に三〇センチ前後、一部では約五〇センチに達するなど全体的に良好で、概ね期待に届ける形となりました。試験区毎の生育状況比較については、肥料、水分の多い配合の方が生育は良いという結果になりました。種子に一定の耐性があることで土壌が乾燥し日照時間が短い中でもある程度緑化は果たせますが、有機物を多く含む表土が流出した礫質土で貧栄養という状況下では配合の差が成長の差に直結してしまう形となりました。種子配合をしない「待ち受け型」は、春期に周辺から飛来する種子の捕捉ができず、草本・木本植物の生育はほぼみられませんでした。省力化や環境保全の観点からも成果を期待していたのですが、もう少し捕捉効果を高めた方法が必要のようです。本事業について結論を述べるには早すぎますが、これまでを振り返ると一定の成果は出たと考えており、今後も経過観察を続けながら施工技術の更なる向上に役立てていきたいと思えます。

航空実播工とは、種子・肥料・土壌改良剤・浸食防止剤などを配合して容器へ入れ、ヘリコプターによって運搬し空中から散布することにより崩壊地などの緑化を図る工法です。今回同工法を採用するに至ったのは、①被災箇所が道路も寸断された奥地で地形も急峻、②現地への資材等の運搬を伴う工事の施工が困難、③主要道路等ライフラインの復旧工事が先行し、山間奥地で多くの人員と長い工期を要する治山工事の

実施が難しい、という諸条件下で「更なる崩壊を早急に防ぐ」必要があったため、積雪地における施工自体あまり例がありません。今回の場合、施工箇所が散在しその面積も広大ながら、資材運搬路等を敷設することなく省力的かつ短期間で施工が可能という本工法の特長がまさに活かされたケースとなり、実際の工事では対象の崩壊地を五日間で施工することができました。施工に当たっては、やせ地・乾燥地に強い種子を採用し、種子や資材などの散布後の厚さが全体に五〜一〇cm程度になるように散布するスラリー方式を採用しました。施工時期については、種子の成長が春(三〜五月)と秋(九〜十月)にピークを迎えることや、種子流出リスクが高まる梅雨や冬期の凍上、積雪への対策上、生育日数をできるだけ確保するためにも雪解け後速やかな施工が必要であったため、準備作業などを経て五月下旬に施工しました。また、施工技術の向上と今後への参考のため、配合における肥料や水分などの量を変えた

獣害被害防止に向けた 里山林整備の推進

福島県会津農林事務所
林業普及指導員 平塚 真基

会津地方では近年、集落周辺でのツキノワグマの出没が問題となっており、過去10年間の人的被害件数は47件で、平成22年から平成25年は毎年死亡事例も発生しています。

地域住民から早急なクマ被害対策が求められると同時に荒廃した里山林の整備が課題となっていました。このような中、里山林において地域住民が行う緩衝帯等の整備や景観整備を支援する里山林整備事業が今年度新設され、この事業を活用することで、人的被害軽減に向けた取組を実施したので報告します。

新規事業ということで、はじめに市町村に協力を依頼し、広報誌や回覧板などにより地域住民への周知を図りました。

次に、農業被害対策として電気柵設置などを既に実施している農業普及所等と連携することにより効果的な実施に努めました。農業普及所など他部署主催の会議の場で里山林整備事業の説明をし、現地検討会などでは現場にあった施業方法を里山林内などの現場で指導するなど、事業内容を明確にイメージできるように心がけました。

広報によるPR、現地での説明の効果もあって約30件の問い合わせがあり、里山林整備による獣害対策への関心の高さが伺え、管内では重要な位置づけとなる事業であることを改めて認識させられました。

要望があった地区に対しては、必ず地域の方々と一緒に現地調査を行い、より効果的な施行方法について検討を行い、今年度は3地区で事業を実施することができました。

その中の1件、喜多方市の川入地区は、飯豊山の麓に位置し、登山客等が利用する野営場を管理していますが、近年、クマ出没が問題となっていました。そこで、クマの目撃証言や足跡の追跡などを地域住民と行い、区長さんと4回にわたり打合せを行った結果、野営場周辺及びクマの移動経路となる沢沿いの除伐、刈払いを行い、見通しを良くすることで出没数の軽減に繋げることとしました。刈払いなどの整備は地域住民自ら行うことで、森林づくりへの意識の醸成にも繋げることができました。次年度以降は登山道沿線の森林整備に併せ、スギのクマハギ対策についても検討しています。

地域住民と現地調査などを行っている中で、小さな子供を持つ若い世代の方々が里山林整備に興味を示していることに気が付きました。自分の所有する森林すら分からないことが一般的になりつつある中で、若い世代に森林整備への興味を持っていただけたことは、林業普及指導員として嬉しい限りです。

今年度は、3地区で緩衝帯設置等の里山林整備事業に着手することができましたが、その効果を確認できるのは来年度以降となります。事業実施地域での出没・被害発生状況などを継続して調査し、より効果的な森林整備に繋げるとともに、当事務所では、本年度里山林整備事業を実施した3地区を鳥獣被害防止地区に設定し、農業振興普及部や農業普及所とともに森林整備も含めた一体的作業を検討しているので、この地区を含め管内全体で事業展開ができるよう今後も指導を続けていきます。



農業振興普及部主催の現地検討会で

森連だより

平成28年度 森林組合監事 研修会の開催

本会は、会員組合指導の一環として、年一回森林組合監事を対象とした研修会を開催しています。

今年度は、去る一月二三日から二四日の二日間の日程で、郡山市のホテルバーデンを会場に、県内十四組合の理事を含む計四五名の出席の下に開催しました。

監事は、理事の職務執行状況を監査する大きな役割を有しています。

それは、組合の内部統制機能と呼ばれ、監事が組合の重大な過失を見逃すことにより、組合が被った損害に対して、賠償請求の責めを受けなくてはならないなど、業務を委任された人の専門家としての能力、社会的地位などから考えて通常期待される相当の注意義務（善良なる管理者の注意義務）を求められています。監事という責務を負われている役



員の方々に、その果たすべき役割を認識していただき、監査技術の提供を行うことがこの研修会の狙いとなっています。

今年度の研修内容は、項目を次の三つに分け、三人の講師から講義を行っていただきました。

1. 「森林組合に対する指導状況について」

講師 福島県林業振興課

鈴木主任主査

県内森林組合の経営状況や県常例検査の結果に基づいた主な指摘事項等について説明。

2. 「森林組合のためのコンプライアンス研修」

講師 農林中央金庫福島支店

水元氏

コンプライアンスが求められて

いる時代背景や具体的事例を交えながら、コンプライアンス態勢の構築について説明。

3. 「森林組合監事監査の実務について」

講師 本会

遠藤監査室長

各組合の決算書・試算表を使用し、監査の際に、事前および実施当日に準備すべき各書類名を挙げながら、具体的な確認内容を説明し、監事監査におけるノウハウを説明。

出席者からは、実際の監査に対する不安な点や試算表から決算書へどのように数字が連動しているかを確認でき、充実した内容だったという声や数字を追うのに一苦労したというご意見もありました。

事業への専門的知識もさることながら、時には人生経験の豊富さと多岐に亘った技能を求められる監事の方々を本会といたしましたは、引き続きご支援していきたくと考えており、また貴重なご意見を基に、次年度開催に向けて、有意義なカリキュラムづくりを検討していきたくと考えております。



監事研修会の模様



平成28年度福島県セミナーの様子（郡山市）

今回のきのこセミナーは、公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会が主催する第一回目の

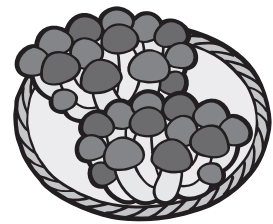
セミナーは、はじめに来賓を代表して福島県農林水産部林業振興課長の飯沼隆宏氏より祝辞をいただき、その後、各講師の皆様への講演へと進めてまいりました。

平成二九年一月二〇日（金）、（公社）福島県森林・林業・緑化協会は、福島県農業総合センターにおいて、平成二八年度福島県きのこセミナーを開催しました。きのこ生産者、県・市町村、各種団体等から参加された約一〇〇名の皆様、熱心に受講されていきました。東京電力の原発事故から、六年目を迎えるようとして

きのこセンター
だより

平成28年度 福島県きのこセミナー を開催

(公社) 福島県森林・林業・緑化協会
きのこ振興センター



きのこ振興センター

きのこセミナーです。そこで「里山再生の意義と福島県きのこ産業復興について」と題した特別記念講演を株式会社富士種菌代表取締役社長の相場幸敏氏にお願いし、県内外の原木しいたけの生産状況や各県の放射能対策及び放射能低減化原木しいたけ法などについての講演をいただきました。次に、株式会社キノックスの三浦栄一氏より「東北のきのこ栽培の現状と将来」という演題で、東北での取組事例を紹介しながら菌床施設栽培用の品種の栽培上の注意点や、大規模施設経営のノウハウ等について講演をいただきました。JA全農福島郡山営業事業所の菅野康徳氏からは、「JA全農福島における菌床しいたけ生産振興」という演題で、系統による安全・安心対策とPR販売を含めた県産菌床しいたけ等生産振興策について講演をいただきました。最後に、福島県林業振興課古川成治氏から「福島県におけるきのこの放射性物質検査状況」「原木しいたけ栽培再開のための実証試験」という演題で、県産原木の早期活用に向けた非破壊検査機器の導入と活用について、野外しいたけホダ場でのホダ木の追加汚染に関する試験実施状況等についての講演をいただきました。全ての講演が、現状で



しいたけ原木非破壊検査機器

の問題点への取り組みや将来への課題等を紹介するもので、有意義なものとなりました。

原発事故後取り組んできた風評対策のPR効果も徐々に見えてきており、生産者の栽培意欲も高まってきている中、今回は、これまでの風評対策や販売に重点を置いた内容から、将来を見据えたきのこの生産体制の確立、ホダ場及び原木の利活用といった生産者側に立ったより具体的な技術セミナーとなり、出席した生産者は以前に増して栽培に意欲的になったように感じられました。

今後ともきのこセミナーを通して、県きのこ産業の早期完全復興に向けて積極的に支援してまいります。

「自然に親しむ」

福島県の巨樹・名木 | 24 |

米沢の千歳ザクラ

樹木医 鈴木俊行



「米沢の千歳ザクラ」は、大沼郡会津美里町米沢字池南地内に生育している。米沢地区は旧新鶴村にあり、会津若松市の西、会津盆地の西側の山裾に位置し、JR只見線根岸駅から南西に約一・五キロメートルの場所である。また、

会津美里町役場新鶴庁舎から南西に約二・〇キロメートルの場所、近くには「会津ころり三観音」で有名な「中田観音」がある。生育地周辺は畑や水田が広がり、周辺に生育する高木などはなく田園風景の中にポツンと一本生育している。地形は全体的に緩やかな東斜面で遠く磐梯山や会津盆地が見渡せる。本樹にまつわる伝説等は、「文永十年（一二七三年）富塚伊賀守盛勝公が、千歳という女性が亡くなったのを悲しみ供養してこの桜を植えたものと伝えられている。また、千歳（幼名）とは江川長者（当時の地主）の娘、常姫という伝説もあるが定かではない。」と本樹の根元近くに立っている解説板に記載されている。本樹の樹種は、バラ科サクラ属のエドヒガン（*Prunus pendula form. Ascendens*）で、サクラの野生種の一

つで、彼岸頃に花を咲かせることからこの名前がついた。本州から四国、九州、韓国済州島に分布し、ヤマザクラと共にサクラの中では非常に長寿の種であることが知られており、樹齢二〇〇〇年を超えると言われる「山高の神代桜」（山梨県杜市）や樹齢一五〇〇年を超える「根尾谷の淡墨ザクラ」（岐阜県本巣市）などが有名である。また、エドヒガンの枝垂れるものが「シダレザクラ」で、樹齢一〇〇〇年の「三春滝ザクラ」は本県のみならず日本を代表するシダレザクラである。エドヒガンは花が多く咲く特性から多くの品種の母樹として使われ、ソメイヨシノの片親としても知られている。本樹の推定樹齢は約六〇〇年とも八〇〇年とも言われる巨樹で、昭和三三年八月一日に県の天然記念物に指定されている。

形状寸法は、樹高六・二〇メートル、幹周



七・〇〇メートル、根元周一〇・〇〇メートルで、主幹南側は大きく空洞化し、外科的治療が行われたが経年劣化により覆冠したウレタン材は撤去されている。しかし、内部には数本の不定根が発生し、太さ二〇センチメートル程度になっている。現在の樹勢を支えている。枝張りには東七・〇〇メートル、西六・〇〇メートル、南四・三〇メートル、北六・〇〇メートルとコンパクトな球状の樹形で、主枝の多くが枯損し萌芽枝や胴吹き枝によって樹冠が形成されている。千歳ザクラは一時期樹勢が衰え心配されたが、地元の保存会などの熱心な育成管理により回復の兆しが見られ、今年も紅色の花を樹冠いっぱいに見かせてくれるはずである。満開は四月中・下旬ごろで、老桜がけなげに咲く姿を見に出かけてはいかがだろうか。千歳という桜の精に出合えるかも知れない。



木材市況

素材の価格〈工場着価格〉(12月15日現在)

(単位：㎡当り千円)

区分	形量		材質	樹種	中通り地方		会津地方		浜通り地方		県平均		
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	
一般用材	小	5~9	4.00	並	スギ	9(8~10)	0	(0~0)		9(8~9)	0	9(8~10)	0
		10~14				11(11~11)	0	(0~0)		12(12~12)	1	11(11~12)	0
	中	14~22	3.00	並	スギ	13(13~14)	0	10(10~10)	0	14(14~14)	1	13(10~14)	1
					ヒノキ	14(12~15)	0	(0~0)		15(15~16)	0	14(12~16)	0
			6.00	スギ	16(16~17)	0	10(10~10)	0	15(13~16)	0	15(10~17)	0	
		並		ヒノキ	28(24~33)	0	(0~0)		19(15~24)	0	24(15~33)	0	
		20~28		3.65	並	スギ	12(12~12)	0	10(10~10)	0	12(12~13)	0	11(10~13)
			4.00	並	11(10~12)		0	10(10~10)	0	12(12~12)	1	11(10~12)	0
	4.00		並	アカマツ	10(8~12)	1	(0~0)		8(8~9)	△1	9(8~12)	0	
	外	30以上	10.00	並	米ツガ	(0~0)		(0~0)		28(28~28)	0	28(28~28)	0
				並	米マツ	32(32~32)	0	32(32~32)	1	29(28~29)	1	30(28~32)	0
		28以下	4.00	並	エゾマツ	(0~0)		(0~0)		27(26~28)	0	27(26~28)	0
並				アカマツ	(0~0)		(0~0)		33(26~40)	0	33(26~40)	0	
並				カラマツ	(0~0)		(0~0)		25(24~27)	0	25(24~27)	0	
並				マツ	6(6~6)	0	(0~0)		5(5~5)	0	6(5~6)	0	
パルプ用材			並	広葉樹	9(9~9)	0	(0~0)		7(7~7)	1	8(7~9)	0	

十一月の原木市場への入荷状況は、前月比二割増（前年比九割減）の二六、七七八立方メートルとなっている。販売量については、前月比六割増（前年比二割減）の二五、五六〇立方メートルとなっている。十二月の価格については保合いとなっている。

区分	形量		材質	樹種	会津共販		いわき	
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差
一般用材	12以下	4.00	並	カラマツ	(0~0)		7(6~9)	0
	13~14		並	カラマツ	(0~0)		8(7~8)	0
	16以上		並	カラマツ	(0~0)		10(9~11)	0

- 注) 1. 前月差の△印は値下りを示す。
 2. () 内は各地域の価格幅、() 外は各地域の平均価格を示す。
 3. 一般用材カラマツは工場着価格ではなく、福島県森林組合連合会の会津共販所・いわき木材流通センターの素材市売価格を示す。
 4. 各地域の価格について、異常値が生じた場合には県平均算出から除く場合がある。

いわき市の北西部にある二ツ箭山は、麓からもよく見える頂上付近の二つの大きな岩山が特徴的で、向かって左が男体山、右が女体山と呼ばれ、この二つの岩を矢竹に見立てたのが山名の由来とされています。標高七〇九・七メートルのそんなに高くない山ですが、古くから修験の山として信仰を集めています。私が行ったのは十月末の日曜日のお昼前でした。小川町から国道三九九号を北に向かうと右手に「二ツ箭山入口駐車場」があります。登山口からスギ林を抜け御神体ノ滝の左手の急な鎖場を行けば、沢水の流れが心地よい登りがしばらく続きます。尾根に出てまもなく男体山直下に至り、見上げると約三〇メートルほど垂直に見える岩場に鎖が下がっています。鎖につかまりながら慎重に登れば、男体山と女体山の間基部に到達。振り返ると登山口の駐車場が小さく見えます。さらに右手の女体山の鎖場を登ると女体山の頂上に出ます。あまりの高さに少し腰が引けながらも、



「ふたつやさん 二ツ箭山」をめざして

いわき農林事務所 松崎 洋

いわき市街や太平洋、振り返って阿武隈山系の山々などの眺望を楽しむことができます。近くにベンチがあるのには驚きましたが、少し休んで頂上に向かいます。頂上は木々に覆われ見晴らしは良くありません。稜線を南に行った月山からは、さきほどの男体山・女体山がきれいに見えます。月山から登山道を下り、日が暮れる前に登山口に戻ることができました。

総歩行時間四時間弱でしたが、沢あり岩場あり眺望も楽しめるいろいろな要素がたっぷりな二ツ箭山です。四月下旬には稜線にアカヤシオなどの花も楽しむことができます。この春、あなたも花と眺望と岩登りを楽しみに行ってはいかがでしょうか？



月山から男体山(左)女体山(右)を望む

はなしの
ひろば

年の朝

東日本大震災から六年。この間、相双地区の海岸防災林植栽工事が始まり、常磐自動車道が全面開通した。帰還できた町村もある。県北でも干し柿や凍み豆腐が干せる季節の光景が戻ってきた。目に見えての復興が足音をたててきた一方で、大切なふる里の一部は傷つけられたままだ。事故後「原子力は安全神話に過ぎなかった。」とも言われたが、神話であったなら、なぜ神風は吹いてはこなかったのか、などと根拠のない話を思い巡らしてみても仕方ないことだが、今なお悔しく、そう思わずにはいられない。

福島第二原発から七^{キロ}地点に住んでいた大熊町の従妹は、現在いわき市に居を構え、永住を決めたという。また、仙台市に住む浪江町幾世橋の従兄妹は、年賀状に「幾世橋の家も今年中に取り壊し、先祖代々続いた幾世橋での生活も私の代で終わり…。屋敷には氏神様を残し、あとは更地、お墓と何も作れない田畑と山林を定期的に手入れしながら荒れないように守っていくだけとなりました。」と書いてあった。「これ以上荒れないように守る」という言葉に、先々が見えない中での葛藤の末、六年目の強い意志と覚悟を感じるのである。が、切ないほど正直な現状に言葉がない。

ところで、ロシアの詩人プーシキンは「三月は年の朝」と詠んでいる。一年を一日に例えれば、冬至は真夜中の零時、春分(三月二十日)は午前六時、夏至は正午で、秋分は午後六時だという。一年の夜明けにあたる三月は、日脚も伸び「光の春」ともいえるだろう。そして、三月十一日を過ぎれば、春めいてくる光に心も柔らかく、それぞれに、今年の春が訪れてくるだろう。

(都)

表紙の写真



「雪解けのころ」

第31回ふくしま緑の写真コンクールで金賞を受賞した安齋保里さん(二本松市)の作品。
撮影場所：只見町

編集

発行人

福島県内四森林管理署
福島県森林・林業・緑化協会
福島県森林組合連合会
福島県木材協同組合連合会
福島県農林種苗農業協同組合
ふくしま緑の森づくり公社
森林総合研究所福島水産林整備事務所
福島県森林・林業・緑化協会
(福島市中町五番一八号県林業会館内)
相馬 雅俊
陽光社印刷株式会社
(定価 一〇八円)

お知らせコーナー

○野生山菜、たけのこの出荷・販売について

山菜のおいしい季節となりましたが、山菜、たけのこの種類によっては市町村単位で国からの出荷制限の指示や県からの出荷自粛要請が継続されているものがあります。出荷制限・自粛要請区域から採取されたものは出荷・販売はもとより、飲食店、宿泊施設などでの提供、無償譲渡を行わないようご注意ください。

山菜の出荷制限・自粛要請については福島県林業振興課のホームページをご確認ください。「福島県 山菜 出荷制限」で検索してください。

(<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36055c/ringyo-monitoring.html>)

また、出荷が制限・自粛されていない市町村産の山菜、たけのこの出荷・販売を希望する場合は、出荷前にモニタリング検査を行う必要があるため、県農林事務所までご相談ください。

円滑なモニタリング検査を行うため、皆様の御協力をお願いします。

・たけのこの出荷制限・自粛要請位置図



・連絡先一覧

事務所名	住所・連絡先
県北農林事務所 (森林林業部)	福島市杉妻町2-16(福島県庁北庁舎5階) 024-521-2632
県中農林事務所 (森林林業部)	郡山市麓山一丁目1-1 024-935-1367
県南農林事務所 (森林林業部)	棚倉町大字関口字上志宝50-1 0247-33-2123
会津農林事務所 (森林林業部)	喜多方市松山町高見山字下天神6-3 0241-24-5734
南会津農林事務所 (森林林業部)	南会津町田島字根小屋甲4277-1 0241-62-5375
相双農林事務所 (森林林業部)	南相馬市原町区高見町一丁目276-1 0244-26-4305
相双農林事務所 (富岡林業指導所)	南相馬市原町区高見町一丁目276-1 0244-26-4302
いわき農林事務所 (森林林業部)	いわき市平字梅本15 0246-24-6193

備えのパートナー 森林保険

こんな災害からあなたの山を守ります。



1 火災

山火事で受けた損害



2 風害

暴風による根返り、幹折れなどの損害



3 水害

豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害



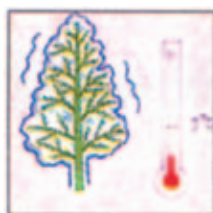
4 雪害

大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害



5 干害

乾燥による枯死などの損害



6 凍害

凍結、寒風などによる枯死などの損害



7 潮害

潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害



8 噴火災

火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》

竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》

◆福島県森林組合連合会
TEL024-523-0255(代)

または最寄りの森林組合

イワフジのプロセッサ

GP-45V グラップルプロセッサ

IWAFUJI
INDUSTRIAL CO., LTD.

シンプルと耐久性を追求したプロセッサ

- 高耐久性を追求したフレームとトンク
- 全旋回を無くしたシンプル設計
- カッタ保持はシンプルなスプリング式
- 強力な油圧モータおよび保持力によるパワフルな送材力
- 大きなトンクによる効率的なグラップル作業
- 皮剥けを防止するガイドローラ付トンク
- 高速コンピュータGP-7による精度の高い安定した測尺
- 手元のノブスイッチで全ての操作が可能

Simple Processor
MODEL : GP- 45V

イワフジ工業株式会社

www.iwafuji.co.jp

北関東支店 〒963-8052 福島県郡山市八山田 5-314
TEL 024-973-5166 FAX 024-973-5168

林業機械の総合メーカー

- ・ハーベスタシリーズ
- ・フォワーダシリーズ
- ・グラップルシリーズ
- ・プロセッサシリーズ
- ・スイングヤーダシリーズ
- ・ラジキャリアシリーズ
- ・木寄せウインチシリーズ

イワフジが開催する「高性能林業機械のメンテナンス研修」受講生募集中!



自然との調和

(私達は、地球的視野に立ち、つねに進取の精神をもって、時代に挑戦します。)
皆様のご要望にお応えする、環境との調和を図る製品やタイムリーな情報を提供し、全国から厚い信頼をいただいております。

<p>野生獣類から大切な植栽木を守る</p> <p>ヤシマレント</p> <hr/> <p>ヤマビル対策に</p> <p>マリックスター(駆除剤)</p>	<p>蜂さされ防止</p> <p>ハチノックL(巢退治) ハチノックS(携帯用)</p> <hr/> <p>タケを駆除する</p> <p>クロレートS</p>	<p>大切な日本の松を守る 住化グリーン®の林業薬剤</p> <p>ヤシマスミバイン乳剤 ヤシマスミバインMC グリーンガードNEO パークサイドF ヤシマNCS モリエートマイクロカプセル マツグリーン液剤2 マッケンジー</p>	<p>くん蒸用生分解性シート</p> <p>与作シート(茶・白) (折りたたみ式 専用キャリーバック使用)</p> <hr/> <p>竹・ササの防除に</p> <p>クロレートS粒剤</p> <hr/> <p>アメシロなどの害虫防除殺虫剤</p> <p>打ち込み上手</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------



住化グリーン株式会社

本社 〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町1番8号 TEL.03-6837-9422 FAX.03-6837-9423

効率良く快適に! 手持ち作業から大型作業まで充実のラインナップ。

機器はゼノアから

<p>チッパシュレッダ</p>  <p>竹もOK! SR3100 出力 18.4kW (質量1,330kg) 水冷ディーゼル 967634301 ¥3,580,000(税抜)</p>	<p>ハンマナイフモア</p>  <p>ZHM1550 出力 27.5kW (質量1600kg) 967081901 ¥5,860,000(税抜)</p>	 <p>ZHM800 出力 7.4kW (質量230kg) 967088901 ¥748,000(税抜)</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

ハスクバーナー・ゼノア(株)福島県代理店

(有)うねめ林業機械

TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108の1